

班	講 評
16	<p>研究報告書の提出お疲れ様でした。内容面については比較的良好に書けていました。自分の考えや目指す将来像について、理由や具体例も踏まえて論理的に説明することができていました。形式面については差がつかれました。表紙崩れ、チェックマーク漏れ、参考文献の記載ナシ、引用記載不十分、引用と参考文献の区別が曖昧といったような形式面の不備が多くみられ減点せざるを得ませんでした。また、減点はしていませんが論文にも関わらず口語が混ざるケースが散見されます。例えば、「〇〇と思うし、」や、「正直〇〇である」といったような言葉遣いです。フォーマルな文章ではこのような言い回しをしないように注意しましょう。公認会計士は多くの書類や調書を作成します。その内容もさることながら“形式”や“見せ方”も重要となる職業ですから、今後の業務においてもこれからを意識するとより良いでしょう。</p>
	<p>出典については記載されているが、参考文献については記載がない論文や、一切言及の無い論文、本文中には出典の記載があるものの、参考文献として記載されている論文があります。出典と参考文献の記載方法について改めて確認し、参考文献は参考文献として、出典は出典として正しく記載を行うようにしてください。また、表紙のチェック項目漏れや章立てがないものなどもありましたので、課題研究の要件については再度確認して下さい。</p>
17	<p>20 年後の自分がどのようなキャリアを積んでいるかという点について、まだまだ先の話ではあるもののしっかりと考えを述べていたと思います。20 年後、実際に自分が描いたビジョン通りに活躍できるよう、実務経験を積むとともに、社内研修や実務補習で知識を蓄積していきましょう。なお、第 1 回の課題研究という事もあり、形式面の不備がいくつかありました。こうした不備で減点されるのはもったいないですので、提出前にはしっかりと形式不備が無いかを確認するようにしてください。</p> <p>第 1 回課題研究の出題意図は大きく分けると①公認会計士が活躍できる場を考えることにより、そのキャリアパスを分析すること②キャリアパス分析と自身の目標を結びつけること。①については、全体的に「引用」も多く、補習生自身による考察も少なかったです。特にキャリア(例えば税務、コンサルティング)の説明に関する記載割合が多く、課題テーマで問われている公認会計士が会計監査以外の分野で活躍するために必要な知識と経験に関する考察が乏しい印象を受けました。また、公認会計士の活躍できる場を公認会計士法第 2 条から定義する例が多かったですが、我々公認会計士が活躍できる場というのは公認会計士法に定められた分野に限定されるものではありません。唯一の解答がある課題ではないため、拘り定規にならず、もっと自由に論じても良かったように思います。上記②については、20 年後という将来像について、5 年後や 10 年後という期間に分けて具体的に考察している事例が多く、全体的にキャリアプランをしっかりと描いている印象を受けました。</p>
18	<p>本課題研究の 2 つの主題である、会計監査以外の業務に対する考察、自身の 20 年後の活躍に対する考察について、どの補習生も自らの言葉で適切に分析していたと判断しています。特に会計監査以外の業務について考察する際、多くの補習生が会計監査で得られる経験が重要である旨記載されていた点が評価できます。ただし、誤字脱字や主語と結論が整合していないケースが散見され、見直しを適切に実施していない事が明白である論文が多かったことは残念です。多くの補習生は、会計監査を通じて得られた経験を活かしたコンサルティング業務について言及しており、具体的には内部統制監査で得られる、あるべき企業の姿を学習するという点を基礎に議論を展開している課題研究が多い印象でした。この点、会計監査では、監査基準委員会報告書 315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」で報告されている通り、クライアントを取り巻く環境の理解を通じてクライアントのビジネスを適切に理解し、財務諸表に重要な虚偽表示をもたらすであろうビジネスリスクを網羅的に識別し、固有リスクの判断も含め、必要な監査手続を設計する事がリスクアプローチに基づく会計監査の根幹であります。私見ですが、このようなビジネスリスクは言い換えればクライアントの経営上の弱点である場合が多いと考えています。つまり、会計監査で実施するビジネスリスクの分析は、クライアントの経営改善点の分析につながり、会計監査を通じて自然にコンサルティング業務の基礎が身に付いている事が多い、と私は考えているのですが、この点まで言及できていた補習生は皆無でした。20 年後の自己の姿について、中学生や高校生を対象に公認会計士の魅力を啓蒙していきたいと言及している補習生がおり、高い目的意識は特筆に値すると考えています。後半のテーマについては、裏にはあなたの使命は何か、という点にあると考えています。公認会計士はその職務上、大企業の経営者やベンチャー企業の創始者等と多く接する機会があります。経営者は、例えば、新生児死亡率ゼロ%を目指して、安全なミルク・栄養剤等を世界に安定して供給する、等の使命を持ち、そのためにどのような経営戦略を立てるべきか常に考えています。このような経営者と接する際に、公認会計士が何もポリシーを持たず、ただ単に業務をこなしているだけであれば、全く相手にされず、ビジネスの理解等はもちろん、深度ある監査はおろか会計監査業務そのものが蔑にされる恐れもあります。この意味において、20 年後のご自身の社会に対する使命とは何か、と言った観点から記述されていた課題研究は皆無でした。補習生の皆さんの多くは、公認会計士試験に合格する事が使命であり、今後の事はまだ何もわからない方が多いと思います。使命や目標は毎年変わっても良いと思いますので、自身の公認会計士としての社会的使命を意識して今後経験を積んで頂く事を期待して、講評と致します。</p>

班	講 評
18	<p>全体として、概ね良く論述できていたと思います。今回は、会計監査以外で活躍できるのはどのような分野か、その分野で求められる知識・経験はどのようなもので、それは会計士のキャリア上どのような業務・経験を経れば身に付けられるのかを首尾一貫して記述できた論文は高得点としました。公認会計士法第2条の定義を記載している論文も散見されました。定義等を引用するのは誤りではありませんが、それに字数をかけすぎ、他の記述が薄くならないよう、留意ください。会計士試験に合格したばかりではありますが、今後の会計士としてのキャリアパスを考える、いい契機になったのではないかと思います。</p>
19	<p>今回の課題研究は設問の性質上、模範解答のようなものではなく、優劣をつけにくいテーマでした。ただ、具体的な記述になっているものとそうでないものがあり、そこで評点に差がついたように思います。一般的に論文やレポートでは記載内容が具体的でない、読み手に対する説得力が弱くなります。今後の実務で顧客にレポート等を提出することがあると思いますが、記述内容が具体的になっているか、留意されるとよいと思います。</p> <p>会計以外の分野で活躍するために必要とされる知識、経験については、全体的によく書けておりました。その内容を20年後に上手くつなげられるとより説得力のある課題研究になると思います。</p> <p>全体の構成を考えながら議論を展開するといふ課題研究になると思います。各設問ごとに都度まとめて意見を述べることや、そのまとめを設問間でうまくつなげること、2,400字という制約の中で必要なことと必要でないこととを取捨選択すること、章立てを意識して構成させること等を意識して作成してみてください。</p>
20	<p>情報収集や深い研究が必要なテーマというわけではなかったため、論理性や文章力で差が付いています。補習生の間で論理力・文章力に大きな差があることを改めて認識しました。</p> <p>会計監査業務でもそれ以外の業務でも文章・口頭での説得力のあるコミュニケーションは必須のスキルとなりますので、これを機会に向上を図っていただきたいと思います。テーマ後段の20年後の自分像についてはのびのびと自由に記述していただきました。忙しくなってくると日々の業務に追われてしまいがちですが、思い描いている20年後の姿になれるよう、自分の目標とキャリアパスを適切に結び付けてこれからの会計士人生をスタートしてください。</p> <p>各人真剣に課題に取り組んでいる印象はありました。今後の長い会計士人生の基軸となるテーマであったため、実務を経験し、しばらく時間が経ったのちに、各々改めて読み返していただきたいと思います。一方、現実味を欠く記載が目立ったのは気になりました。例えば、故郷に戻って地方会計事務所での活躍するとの記述が複数ありました。都市にこだわらず、地方でもできる働き方を前提としての議論なら理解の余地がありますが、「地域経済の発展に寄与したい」といった漠とした意図と思われ、具体論が気になります。</p> <p>多くの補習生が、監査法人に入所したばかりでキャリアパスについて十分な将来像が描けていない人が多いと考えられるが、各人が思い思いのパスを持っており、将来が期待されていると感じた。一部形式面について不十分な人がいたので、今後、十分に注意のこと。</p>
62	<p>引用符がない引用での減点があった。ルールへの遵守を徹底してほしい。内容についてはあなたの考えを問う問題のため誰かの言葉ではなく、自分の言葉で書いて欲しかった。</p>